

現代マレーシアにおける政治と民族の関係

— クランタンにおける PAS 派華人指導者台頭をめぐって —

高 村 加珠恵 *

The Changing Relationship between Politics and Ethnicity in Contemporary Malaysia: The Emergence of Chinese Leaders Supporting PAS in Kelantan

TAKAMURA Kazue*

The aim of this paper is to advance an ethnographic analysis of Chinese leadership in Kelantan. The Chinese community in Kelantan is often referred to as a disadvantaged minority constrained by a strong Islamic political setting in which Parti Islam Se-Malaysia (PAS) dominates. In fact, developments in the past decade have seen the emergence of Chinese leaders who support PAS. These leaders are actively expanding their political sphere and appealing to Chinese voters. This phenomenon is unique to West Malaysia, where political parties formed along exclusive ethnic lines dominate. The emergence of the Chinese leaders supporting PAS has its roots in the late 1990s, when a former Gerakan Deputy Youth leader converted to Islam and became the first Chinese Muslim member of PAS. Since Anuar Tan was elected as a state assembly member in 1999, a number of Chinese have been appointed as municipal councilors and various committee members under the PAS state government. These leaders function as bridges between PAS and the Chinese community. To comprehend the social background of emerging Chinese leaders supporting PAS, this paper will focus especially on the structure of Chinese leadership and its relationship with the Islamic party. The paper ultimately seeks to understand the functions of ethnic boundaries in shaping politics in contemporary Malaysia.

1. は じ め に

1.1 問題の所在

クランタン州政権を握る汎マレーシア・イスラム党 (*Parti Islam Se-Malaysia*, 以下略称 PAS)¹⁾ は厳格な宗教理念を基盤とする政治スタイルに特徴をもち、イスラム法シャリア

* マギル大学東アジア研究所, Center for East Asian Research, McGill University
2010 年 7 月 23 日受付, 2011 年 10 月 25 日受理

(Shari'a) に基づくイスラム国家 (Negara Islam) の実現を政策目標として掲げている。同党はまた最大のマレー人²⁾ 野党勢力としての地位を保持しており、1990 年代以降、公共の場におけるイスラム化政策を推進してきた。³⁾ とりわけ 1993 年にクランタンで法案化 (未導入) されたイスラム刑罰法フドゥード (*hudud*) は、その最も象徴的なものである。⁴⁾ 国内メディアは、PAS 政権による一連のイスラム化政策に対し、いかに非ムスリムである華人たちの日常生活や経済活動に困難が生じているのか、という否定的な側面に重点を置いた報道を行なってきた [The New Straits Times August 23, 2000; 『星州日報』 October 29, 2004]。

このような PAS の宗教的側面が強調される中で、クランタンには PAS 所属の華人ムスリム議員、陳升頓 (Anuar Tan bin Abdullah) 氏の存在がある。同議員の存在は華語系メディアを除いてほとんど表立って取り上げられてこなかった。クランタンはイスラム教徒であるマレー人が人口の 95% を占め、⁵⁾ マレー半島においても最もマレー人人口の割合が高い。このような社会環境において、人口規模が 4% にも満たない華人の中からマレー人政党である PAS を足場に政治的活動を行なう人物が登場したのである。陳氏はもともと 1996 年に PAS 政権下の州政府によって初代華人コタバル市議員として起用された。その後 1999 年の総選挙を前にムス

- 1) PAS は統一マレー人国民組織 UMNO (United Malays' National Organization) のイスラム福祉部門をその起源とする。この部門はウラマー (ulama) と呼ばれるイスラム学者を中心とするものであった。1951 年に汎マラヤ・イスラム党 (Persatuan Islam Se-Malaya) が結成され、1955 年の総選挙で英語名の Pan Malayan Islamic Party (PMIP) として登録された。マレー語名 (Parti Islam Se-Malaysia) に基づく略称 PAS が用いられるようになったのは 1970 年代以降である [Funston 1976: 69-73]。
- 2) マレーシアにおいて、「マレー人になること (*masuk Melayu*)」「イスラム教徒になること (*masuk Islam*)」であることはほぼ同義的に語られることが多い。この背景には、植民地時代に定められた「マレー人保留地令」における「マレー人」という民族定義では「マレー語を日常的に話し、イスラム教を信仰し、慣習法であるアダットを实践すること」が主な 3 つの要素となっており、この定義がそのまま今日まで継承されている。特に 1970 年代以降マレーシアではマレー人であることの拠り所としてイスラム性に強調がおかれるようになった [Ong 1995: 163]。
- 3) こうした公共の場のイスラム化政策の主なものは、スヌーカーバーやナイトクラブなど娯楽施設の営業停止、公共バスでの男女同席の禁止、スーパーマーケットでの男女別のレジカウンター設置、ムスリム女性に対するスカーフ (*tudung*) および踝までの長いスカートの着装の規定、女性がモデルとなっている企業広告の公示、舞台上での女性の演出パフォーマンスの禁止などである [『星州日報』 November 7, 2004; Stark 2004: 68]。しかしながら 2003 年から 2005 年の間における筆者の観察からは、PAS の公共の場のイスラム化政策は実際の日常レベルではそれほど浸透していない感を受けた。
- 4) 1993 年にクランタン州議会で法案化された The Shari'a Criminal Code (II) Bill では、フドゥード (*hudud*) とキサス (*qisas*) の 2 つが刑罰法として盛り込まれた。まずフドゥード (*hudud*) とは、窃盗 (*sariqah*)、姦通罪や婚前交渉を含めた不適切な性交渉 (*zina*)、証拠不十分な *zina* の申し立て (*qazaf*)、飲酒 (*syurb*)、背教 (*irtidad*, *riddah*) に対する刑罰である。キサス (*qisas*) とは、傷害、殺人の罪に対する刑罰であるが、これは基本的に復讐法に基づく。マレーシア連邦憲法の 9 条 4 項において、刑罰法に関する最終的な決定権は連邦議会に委託されており、州議会で法案が可決されても、法の導入に際しては連邦政府からの制限を受ける [Mohammad Hashim 1998: 203-207; Aliran Monthly 2002]。
- 5) 2000 年のセンサス (国勢調査) によれば、クランタン州の全人口 126 万人のうち、その民族構成はマレー人 (*Melayu*) が 95% (120 万人)、先住民のオラン・アスリ (*Orang Asli*) が 0.8% (1 万 550 人)、華人 (*cina*) が 3.5% (4 万 4,545 人)、インド人 (*india*) が 0.27% (3,499 人)、その他 (*lain-lain*, ほとんどがタイ仏教徒) が 0.6% (8,376 人) であった [Jabatan Perangkaan Malaysia 2001]。

リムに改宗し、正式に PAS に入党する [『中国橋網』 July 8, 2006]. そして同年の選挙で州議員に当選し、今日に至るまで同議席を保守している。陳議員は、州の内閣に相当する執行理事会 EXCO (*Majlis Mesyuarat Kerajaan*) の 12 名のメンバーのひとりでもある。⁶⁾ とりわけ注目すべき点は、この PAS 歴代初の華人ムスリム議員の影響の下に、ムスリムではない複数の華人たちが州政府の役職に起用されるようになったことである。たとえば、2009 年に州政府に起用された華人は 2 名のコタバル市議員、12 名の町議員、9 名の村長であった。⁷⁾ これに加えて、州政府の下に観光・文化に関する、あるいは投資誘致を目的とする委員会が存在し、複数の華人が委員に任命されてきた。こうした州政府に起用された華人たちの間で、積極的にクランタン内外の華人社会における PAS 支持基盤を形成しようとする独自の動きがみられる。本稿では、PAS を足場に政治的活動を行なう華人指導者に着目し、従来のマレーシア社会を大きく位置づけてきた「民族の政治」においてみられなかったような個人と政党との関係性を模索する。便宜上、PAS に起用された華人政治家や役人たちを PAS 派華人指導者と呼び、従来の華人系政党を足場に政治的活動を行なってきた指導者とは区別する。

1.2 「民族の政治」

本稿では、PAS を支持する華人たちの動向に着目するわけであるが、ここで明確にしておきたい点は、マレーシアにおいて自らの民族を代表する政党ではない、しかもイスラム主義を掲げるマレー人政党 PAS を足場に政治的活動を行なう華人たちの存在は、極めて「異色」であるということである。後述するようにマレーシアでは華人政党とマレー人政党間の政治的協力はごく当り前にみられるものの、華人個人がマレー人政党を足場に政治的活動を行なうという現象がこれまでみられなかった。これは「民族」という尺度によって同社会のあり方そのものが形作られてきたことと大きく関わる。

独立後のマレーシアにおいては、各政党が特定の社会階級層の利害を代表するのではなく、むしろ特定の民族集団の利害を主張する民族の庇護者 (ethnic patron) [Gomez 2007: 5] とな

6) 陳議員は 2010 年現在「企業開発・貿易及社会団結委員会委員長 (華語名)」(*Pengerusi Jawatankuasa Pembangunan Usahawan, Perdagangan Dan Pembangunan Masyarakat*) を務める [『中国報』 March 1, 2010; *Majlis Mesyuarat Kerajaan/Dewan Negeri Kelantan*].

7) [『中国報』 January 22, 2009]. そもそもクランタンの地方自治体は州都のコタバル市議会 (*Majlis Perbandaran*) および 11 の町議会 (*Majlis Daerah*, 華語では「県議会」として表記) から構成される。マレーシアの地方自治体では、議員選挙が実施されておらず、任命制となっており、実質上州政権を握る政党が任命する権利をもつ [*Jabatan Perangkaan Malaysia* 2001: 351; 坂本 2007: 24, 39]. 市議員および町議員は、地方自治体の公務員であるのに対し、村長 (*Ketua Kampung*) は、州の郡役所 (*Pejabat Tanah dan Jajahan*) によって任命されるコミュニティの指導者であり、厳密には公務員ではない。「郡 *Jajahan*」とは地方自治体とは別に置かれた行政区分であり、クランタン独自の区分である。クランタンには 10 の郡 *Jajahan* の下に、それぞれ地区 *Daerah* が置かれ、その下にムキム *Mukim* がある [*Jabatan Perangkaan Malaysia* 2001: xxvii; *Majlis Mesyuarat Kerajaan/Dewan Negeri Kelantan*]. 村 *Kampung* は、ムキムの下に位置づけられるが、正式な行政上の区分には当たらない [坂本 2007: 27]. なお、2003 年の筆者の調査時には、クランタンにおける主な華人地方公務員は、2 名のコタバル市議員、2 名の村長であった。

ることによって政治的基盤を形成してきた。これはイギリスからの独立（1957年）を目前にした1955年にマレー人を代表する統一マレー人国民組織 UMNO (United Malays' National Organization),⁸⁾ マレーシア華人公会 MCA (Malaysian Chinese Association, 華語名は「馬來西亜華人公会」), マレーシア・インド人議会 MIC (Malaysian Indian Congress) という3つの民族政党から構成される連盟党 (Alliance) が結成されたことにその起源を遡ることができる。連盟党は1971年には与党連合・国民戦線 BN (*Barisan Nasional*) としてマレーシア人民運動党 Gerakan (*Parti Gerakan Rakyat Malaysia*, 華語名は「民政党」) など他政党も加わり再編成された [Gomez 2007: 5-6]。

このような複数の民族政党による連合政権構造が維持されてきた背景には、マレーシア社会、特に半島マレーシア独特の社会環境を挙げることができる。同社会では単一民族が圧倒的多数を占めるのではなく、マレー人、華人、インド人という3つの民族集団が拮抗関係にあるため、少数派の民族集団が多数派の民族集団に対してある一定の政治的発言力をもつ。とりわけマラヤ連邦の独立前後においては、マレー人の移民に対する優先権利、そして移民出身である華人およびインド人の市民権の獲得および母語教育の保持をめぐる、民族間の利害交渉が大きな政治的焦点となった [Ratnam 1965; 金子 2001]。独立時において民族集団の境界に沿って集合的利害が形成されたため、これを調整するため、結果として各民族の庇護者を掲げる民族政党が政治的に連携し、各民族集団が一定の合意の下に権利・資源を分配するというスタイルが確立された。これは communal politics [Ratnam 1965] あるいは ethnic politics [Brown 1994] と呼ばれる。本稿では山本 [2008] らに従い「民族の政治」という用語を用いる。山本 [2008: 5] はマレーシアにおける「民族」について「全国レベルの意思決定に代表を派遣する資格があると相互に認知された枠組み」として位置づけ、「権利としての民族」という特徴を指摘している。この点はまさに「民族」が政治化し、「民族」という尺度が社会構造を規定する要因となっていることを示すものである。

クランタンにおける PAS 派華人指導者の台頭は、明らかにこの「民族の政治」を逸脱する現象である。「民族」という尺度が彼らの政党選択の基準になっておらず、むしろ個人が「民族」という枠組みを越えて政党を選択し、政治的活動を行なっていると解釈することができる。そうであるならば、PAS 派華人指導者の事例はどのような尺度に基づいた個人と政党との社会関係のあり方を示すものであるのか。果たして「民族」に代わる全く新しい尺度が個人と政党との関係において機能しつつあるのであろうか。本稿では、以上のような問題意識に立っ

8) UMNO は1946年にイギリスによって提案された独立後の憲法案としてのマラヤ連合案 (Malayan Union) に反対して同年、政治組織として結成された。この背景には、マラヤ連合案が人種出自を問わず国民に同等の権利を与えるという概念を基盤とするものであり、マレー人の移民に対する優先権利が明示されていなかったことが挙げられる [Ratnam 1965: 43, 144; Gomez 2007: 5]。

たうえて、PAS 派華人指導者の台頭という現象とその政治・社会的背景について考察する。具体的な考察方法としては、華人社会における、そして PAS における PAS 派華人指導者の果たす役割や政治的意味、また個々の複雑な力関係に配慮しながら個人と政党との社会関係についての民族誌的考察を行なう。

本稿では以下の順に議論を進める。まず PAS 派華人指導者が台頭した政治的文脈を明らかにするために、PAS 党内部のおよび近年のマレーシアにおける政治的変遷を鳥瞰する。続いて PAS 派華人指導者台頭の社会的文脈を理解するために、クランタン華人社会の特徴、特にその民族間関係を取り上げる。次に、PAS 派華人指導者誕生に先行する従来の MCA 経由の「民族の政治」構造、およびその限界性を明らかにする。そして具体的な考察においては、まず PAS 派華人指導者の果たす役割を分析し、次に PAS 派華人指導者の華人社会における位置、および PAS 党内における位置について考察を行なう。終節では、「民族」をめぐる個人と政党との社会的関係という問いに立ち返り総括を行なう。本論は筆者が 2003 年から 2006 年の間に行なった実地調査および新聞記事を主な考察材料としている。

2. PAS 派華人指導者台頭の政治的背景

PAS 派華人指導者の台頭は 1990 年代末以降に見いだすことができるが、これは 1990 年代以降に行なわれた PAS 党内部の改革、および連邦レベルの政局の変化と深く関わる。そもそも PAS は 1970 年代に BN の一政党であった時期がある（1972-1977 年）。当時の PAS は、世俗的とされる党代表モハマド・アスリ（Mohamad-Asri）の個人的影響下にあり、党の方針そのものがマレー人民族主義に大きく傾いていた [Stark 2004: 52]。PAS は 1977 年に BN を最終的に離れることになるが、その翌年の総選挙ではクランタン州政権を初めて失う。⁹⁾ この政治危機こそが国外でイスラム高等教育を受け、ダッワ運動¹⁰⁾ に強い影響を受けた新しい世代を台頭させ、党の方向性を大きく変えていくことになる [多和田 1995: 175; Stark 2004: 53; Liew 2005; Ong 1995: 174-175]。

1990 年に同党はクランタン州政権に復帰すると、¹¹⁾ 積極的にイスラム主義の推進を行なっていく。当時の党代表であったファジル・ヌール（Fadzil Noor）の「イスラムの近代化」とい

9) 1978 年の総選挙では、PAS は州議席 11、国会議席 5 と議席を大幅に減らした [Liew 2007: 109]。

10) ダッワ (*dakwah*) とは「招き入れること」を意味する。ダッワ運動は、普遍的なイスラムに立ち戻ろうとする意識的改革であり、組織的な啓蒙運動から個人の衣食住習慣レベルに至るまでさまざまな形でそれが実践された。特にマレー慣習法であるアダット (*adat*) はヒンドゥー的要素を含むため、非イスラム的であるとして否定された。この運動は、特に都市に住み高等教育を受けたマレー青年層を中心に大きな影響を与えたことに特徴をもち、さまざまな組織が生み出された [多和田 1995: 173-174; Nagata 1980: 413-416]。

11) 1990 年の PAS のクランタン州政権の復帰の背景には 1980 年代末の UMNO 党内部の分裂後に結成された 46 年精神党 *Parti Melayu Semangat 46* (Tengku Razaleigh Hamzah を代表) との政治的協力が大きく関わる。この政党 *Semangat 46* は当時のマハティール政権に対抗するものであったが、結局 1989 年から 1996 年の短命に終わった [Crouch 1996]。

う理念の下に、冒頭で取り上げた公共の場のイスラム化が実行された [Liow 2009: 76]。これと並行して、党内部の改革を行ない、従来の農村を基盤とする宗教指導者層だけでなく、都市部で西洋的教育を受けた知識人、有識者たちを党の執行部に積極的に招き入れていく。こうした党に新しく加わったりベラルな思想をもつ指導者層が党の方針、政治的方向性に影響を与えていくことになる。

このような党内部の変化に加えて、連邦レベルにおける政局の変化も PAS の政策路線に大きな影響を与えた。この代表的なものとして 1998 年のアンワール・イブラヒム (Anwar Ibrahim) 副首相の失脚に伴い、特にマレー人有権者の間で BN 離れが加速したことが挙げられる。結果として PAS はマレー人支持層を大幅に拡大しただけでなく、¹²⁾ 華人系政党との政治的協力にもつながった。1999 年の総選挙において、PAS、人民行動党 DAP (Democratic Action Party, 華語名は「民主行動党」) および国民公正党 *Parti Keadilan Nasional* (2003 年に人民公正党 PKR, *Parti Keadilan Rakyat* に改名)¹³⁾ の 3 党間で野党連合・代替戦線 BA (*Barisan Alternatif*) が結成された。ファジル党代表は、華人系政党である DAP との政治的協力を正当化するために「正義を求める戦いは、マレー人およびムスリムだけのものではなく、マレーシア人全体のもの」であることを強調し、イスラムの下民族平等を掲げ、マハティール政権の汚職や不正との対照性を強調する政治キャンペーンを展開した [Liow 2004: 368]。

しかしながら、1999 年総選挙での躍進にも拘わらず、その後の PAS をとりまく環境は必ずしも安定したものではなかった。第一に、2001 年のアメリカにおける同時多発テロ、所謂「911 事件」以降、PAS の厳格な宗教理念が「イスラム原理主義的」として国内外の主要メディアによって否定的なイメージが重ねられるようになったことが挙げられる。同年、PAS は「イスラム国家」論をめぐり DAP との政治的協力関係を終らせることになった [Pepinsky 2009: 90]。第二に 2004 年の総選挙における PAS の後退が挙げられる。この背景には、20 年以上にわたって BN 政権を独占してきたマハティール・モハマド (Mahathir Mohamad) が首相の座を去り、代わってアブドゥラ・アフマド・バダウィ (Abdullah Ahmad Badawi) が首相に就任し、新生した BN のクリーンなイメージが強調されたことが挙げられる。結果として 2004 年の総選挙では、BN は連邦および州レベルにおいて大幅に議席を拡大することになった。一方の PAS はクランタン州議会での議席を大きく失い、クランタン州議会の内訳は PAS が 24 議席、BN の議席は 21 議席という五分五分に近い状況となった。¹⁴⁾

このような危機的状況の中で、2008 年の総選挙では、PAS は再び DAP および PKR との 3

12) 1999 年には PAS の党員数が従来の 40 万人から倍以上の 100 万人に急増した [Liow 2009: 77]。

13) マレー名の *Keadilan* の日本語訳に関しては、「正義」あるいは「公義」とされる場合もあるが、本稿では華語名の「人民公正党」をそのまま使用する。

14) PAS は 2005 年のペンカラン・パセ (Pengkalan Pasir) における州議会補欠選挙によって、さらに 1 議席を失い、クランタン州議会は BN が 22 議席、PAS が 23 議席となった [Stark 2004: 56-58; Liew 2007: 108-109]。

党間で野党連合・人民連盟 PR (*Pakatan Rakyat*)¹⁵⁾ を結成する。そして PR は 11 州中、5 州 (ペナン、セランゴール、クダール、ペラ、クランタン) において州政権を獲得するという快挙を果たした。同選挙では、BN がかりうじてマジョリティを確保したものの、独立以降初めて BN の下院議席数が全体の 3 分の 2 を下回る状況になった。¹⁶⁾ PAS もまた議席を大きく拡大し、クランタン州議会では定数 45 議席中 38 議席を獲得し、クダールの州議会においては 5 議席 (2004 年) から 16 議席にまで伸ばしている [Pepinsky 2009: 96]。2008 年総選挙での PR の躍進は、むしろ非マレー票が DAP や PKR に流れたことが大きな要因であるとされ、必ずしも PAS の貢献が大きかったわけではない。¹⁷⁾ しかしながら PAS もまたイスラム主義のトーンを下げ、むしろ BN 方式の「民族の政治」を否定し、民族平等を訴えたことは PR としての調和を保つことになった [The New Straits Times March 31, 2008]。

PAS が地方政権にとどまらず連邦レベルでの政治的影響力を拡大するためには、マレー人有権者を越えた幅広い支持層を拡大することが求められる。しかしながら PAS は華人有権者の支持基盤が非常に弱いという問題を抱える。たとえば 2008 年の選挙結果では、PAS が PR の候補者を立て、UMNO が BN の候補者を立てた選挙区では、BN を支持する華人有権者が全体の 3 分の 2 を占めた。¹⁸⁾ この弱点を克服するためには、政党間の政治的協力に加えて、党内部においても直接華人有権者に働きかけることのできる窓口を作り出すことが必要であった。このような政治的变化の中に PAS 派華人指導者の台頭を位置づけることができる。なお、PAS の 1990 年代以降に推し進められたイスラム主義の強調と、それとほぼ並行して行なわれた非ムスリム層への政治的アピールという二面性は、州首相 (*Mentri Besar*) であり党の精神的指導者 (*Musyidul 'Am*) であるニック・アジズ (Nik Aziz Nik Mat) の個人的影響が強いとされる。後述するように同氏は PAS 派華人指導者の重要な政治的後ろ盾となっている。

ここで今一度強調しておきたい点は、PAS の掲げる民族平等主張は、あくまでも 1999 年以降の政策路線であり、PAS は長年、「イスラムの下民族平等」と「マレー人民族主義」との

15) *Pakatan Rakyat* の日本語訳に関しては、「人民協約」や「人民連合」など定まっていない [山本 2008: 4; 川端 2008: 109]。本稿では華語名の「人民聯盟」を参照した。

16) 2008 年の総選挙では、国会においては野党の議席が 82 議席、UMNO を柱とする与党連合・国民戦線 BN の議席数が 3 分の 2 以下 (140 議席) であった。なお、野党連合の国会における内訳は PKR が 31 議席、DAP が 28 議席、PAS が 23 議席であった [Pepinsky 2009: 94]。

17) ペピンスキーは詳細な選挙区データを用いて、2008 年の総選挙の結果を分析し、BN 後退の背景にはマレー人有権者よりも、むしろ非マレー人有権者の BN 支持離れがあったことを指摘している。たとえば、MCA が BN 候補者を立てた選挙区では、華人有権者の間では PR (特に DAP と PKR) を支持する傾向にあり、MIC が BN 候補者を立てた選挙区でもまた、インド系有権者の PR 支持がみられた。推定では、MCA の華人有権者の票獲得は全体の華人票の 3 分の 1 にとどまり、MIC に至ってはインド系有権者の票の獲得は全体のインド系票の 10% 以下まで落ち込んだ。

18) このような特定の政党に対する民族集団別の「好き嫌い」傾向は、たとえばマレー人有権者の間でも同様にみられる。DAP が PR の候補者を立てた選挙区では、96% のマレー人有権者が BN の候補者に投票している [Pepinsky 2009: 93, 107, 108]。

間のジレンマを抱えていた。1990年代以前のPASの政治的強調は、「いかにクランタンのマレー人がBN主導の経済政策によって恩恵を受けていないか」という点にあった。たとえば、1960年代後半のクランタン東北部のパセマスで調査を行なったナッシュは、PASの地元政治家が有権者にアピールする際の演説を以下のように引用している。

もしもマレー人が自らの土地、宗教、文化を管理保持できるのならば、社会の繁栄は継続される。しかしもしもUMNOが（クランタンの政権を）掌握するならば、経済的開発は進むであろうが、華人が贅沢な宴会を行なっている横で、マレー人はパンの欠けらをほおぼることになるであろう [Nash 1974: 94]。

すなわち、UMNOを中核とするBN政権はクランタンに経済開発のための資金をもたらすが、その恩恵を受けるのはマレー人ではなく、華人であるという論である。ここからはUMNOを批判する際に、PASは「UMNOと結託する華人」という否定的なイメージをも重ね合わせていたことが分かる。以上のように、PAS派華人が台頭するに至った政治的文脈を押さえたうえで、次節ではその社会的土壌を理解するために、クランタン華人社会の特徴について、特にその独特の民族間関係を取り上げておく。

3. クランタン華人社会と彼らを取り巻く社会環境

従来のクランタン華人社会を対象とした研究においては、農村に住む中国系住民、特にマレー人やタイ系住民に影響を受けた独特の言語衣食住習慣が考察の中心にあった。こうしたクランタン独特の農村の華人は、チナ・カンボン (*cina kampung*) もしくはプラナカン・チャイニーズ (*peranakan Chinese*) と呼ばれる [Tan 1982; Winzeler 1985; Teo 2003]。しかしながら、クランタン華人社会のもうひとつの重要な特徴は、その温和な民族間関係にある。これはPAS派華人指導者の台頭の社会的文脈と関わるので、取り上げておきたい。

第一にクランタン独特の民族間関係を形成する社会的背景として、同州においては民族間の経済的格差よりも、むしろマレー人社会内部における格差が問題化するという点が挙げられる。とりわけケスラー [Kessler 1978: 35] は、クランタンにおいてマレー人社会内部の経済的不平等、階級差のほうが表面化することに着目し、民族集団間の経済格差を訴えるBNとは異なり、マレー人社会内部の経済格差、階級社会という現実的問題に焦点を当てたことが初期のPAS（当時はPMIP）の勝利にあったことを指摘している。

第二に、民族間の密接な経済的関係が挙げられる。大部分のクランタンにおける華人商人にとって、人口の大多数を占めるマレー人は商業上の取引相手であり、顧客であり、労働供給源でもある。こうした関係上、コタバルに位置するチャイナタウンを除けばアルコール

類¹⁹⁾や豚肉²⁰⁾を取り扱う店は非常に限られており、ラマダンなどのイスラム教徒の宗教行事に非常に敏感でもある。また成功した華人商人であっても経済的な富を物質的に誇示するということが非常に限られている。すなわちクランタン華人の間ではムスリムに配慮した食習慣や富の可視化の制限などがごく当りにみられる [Winzeler 1985: 114]。こうした華人自身による日常的な配慮が、結果として温和な民族関係に貢献しているとも考えられる。なお、ウィンゼラー [Winzeler 1985] はクランタンにおける社会的境界性は、民族間の格差よりも、むしろ町と村との間の経済的格差によって位置づけられると指摘しているが、まさにこの指摘はクランタン独特の社会関係のあり方を端的に示すものである。

以上のような温和な民族間関係に加えて、クランタン独特の経済・政治環境が特定の華人をひきつけたという点を挙げておきたい。これは著者の実地調査から明らかになったことであるが、クランタンを入植先として選んだ華人は、他州と比べて経済的な競争関係が低い環境そのものを好み、そこにニッチを見出す傾向にある。特にクランタンでは地理的条件から南タイ側との取引を行なう華人商人が多くみられるが、こうした取引においては、華人同士の競争関係だけでなく、マレー人による参入率そのものも低い。よって他州にはない大きな経済的利益が見込まれる [高村 2010: 146-170]。これに加えて華人人口が小規模なことから、華人内部の政治的関係も他州と比べれば非常に温和である。この点は、後述する PAS 派華人指導者の MCA 指導者との個人的な関わりや評価においても反映されている。

クランタンで生きる華人にとって隣人であるマレー人の宗教上のタブーに気をつけることはごく当りに身につけた生活習慣であり、これはクランタンにおいて圧倒的多数を占めるマレー人との密接な関わりのおかげに経済活動や日常生活が成り立っていることから明らかである。また保守的なマレー人社会の中で少数派として周縁化されるというよりも、むしろ競争関係の低い有利な経済環境の中で積極的に自らの生きる場を見出していったと考えることができる。次節では PAS 派華人指導者誕生に先行する従来の「民族の政治」構造、すなわち華人政党の MCA が華人社会の中で中核的役割を果たす仕組みを明らかにする。そして PAS 派華人指導者の台頭の背景についてある選挙区の動向から考察し、いかに従来の政治構造が十分に機能しなくなっているのかを明らかにする。

19) 州内のアルコール類の販売権（華語で「酒牌」）は 2008 年の時点では 12 軒のみであった。しかもこの販売権は 6 ヶ月毎の更新が必要である。ただし食堂でのビール販売に限っては、市町村で発行する特別食堂（*Restoran Khas*）の営業許可のみを必要とし、こうした特別食堂の営業許可をもつ店はコタバル市内だけで 25 軒あった（2008 年現在） [『星州日報』 December 13, 2005]。

20) 豚肉の販売は、コタバル市内の通称「華人市場」（*Pasar Pokok Pinang*）に限定されているが、これは 1980 年代の BN 政権時代と比べれば、むしろ 1990 年代以降の PAS 政権下において豚肉販売の環境が改善されたという見方もある [Liow 2009: 74]。

4. 華人社会の政治的構造およびその限界性

4.1 MCA 経由の華人政治構造

クランタン華人社会においては長年、MCA がその政治リーダーとしての中核的位置を占めており、住民の日常生活とも密接に関わってきた。とりわけ MCA が設置する華人住民向けの福祉行政相談窓口である「MCA 公共サービスおよびクレーム部」（華語では「馬華公共服務及投訴局」）は個人が行政に対する苦情や懇願書を提出できる窓口として重要な役割を果たす。もともとこの窓口は 1988 年にクレーム担当部門（華語では「投訴組」）として初めて組織化され、1990 年の総選挙後に正式に現在の名称となった [『星州日報』September 4, 2009]。相談内容は、行政、進学、居住環境、国際結婚、国籍問題、犯罪被害相談、移民と多岐に及び、支部の担当者が主な窓口となって対応する。²¹⁾ このように政党が特定の民族集団向けに福祉行政窓口として機能する背景には、マレーシア独特の政治的特徴、すなわち個人が政府に対する請願や相談がある場合、地方行政窓口に出向くのではなく、むしろ民族集団を代表する政党を通して解決しようとするという点と深く関わる。このような特徴は上述した「民族の政治」を支える社会構造そのものを反映している。現在のクランタンにおける MCA の会員は 12,000 名であり、この数は華人有権者全体の 40% を占める。²²⁾ このような会員率の高さは、市町村に展開される支部が福祉行政窓口として機能しそれが党の支持基盤形成につながっていることを反映するものである。

しかしながら MCA が最も効果的にその政治的影響力を発揮するのは、地方レベルにおける華人組織間の「横のつながり」と地方から連邦政府につながる「縦の政治チャンネル」をつなぐ役目を果たす際にある。この役割を理解するために、マレーシアにおける華人組織のもつ政治的機能を取り上げておく。華人組織は、華語で「華人社団」あるいは略称「華社」と呼ばれ、地縁、血縁、学縁に代表されるように「縁」を基盤とするという特徴をもつ。たとえば筆者の調査時の 2004 年において、クランタンには 46 の華人組織が存在し、そのリストには中華工商会、政治団体、同郷会館、同業公会、校友会、同姓公会、同好会、宗教団体、華文学校の理事会などが含まれた [高村 2010: 174-175]。こうした華人組織は一般的に首都クアラルンプールに位置する本部を頂点に州都、各市町村にそのネットワークを展開している。しかしながら、このような組織内部のネットワークよりもさらに重要なのは、華人組織間の「横のつながり」である。地方の華人指導者は複数の華人組織において役職を兼任することによって、

21) クアラルンプールにある馬華公共服務及投訴局によれば、窓口を訪れる相談者は華人だけにとどまらず、インド人も窓口を訪れるという。クランタンの場合は、タイ系住民が相談者に含まれる（2003 年 7 月 12 日、MCA 本部の馬華公共服務及投訴局でのインタビュー）。

22) 2006 年 7 月 27 日、MCA コタバル区部長の陳永生氏とのインタビュー。

組織間の横のつながりを強めるだけでなく、個人の政治的影響力を強める。²³⁾ 個人は華文学校の理事会、MCA や同郷会館の青年会、あるいは婦人会など、複数の組織における活動を通して、人脈を形成し、それを基盤に政治的活動を行なう。こうして華人組織間の「横のつながり」は、地方レベルにおける華人政治構造の基盤となっているのである。なお、1950 年代初頭のバンコクの華人社会を考察したスキナーは、中華総商会と潮州会館を支柱として、慈善団体、同郷会館、同姓公会、華文学校の理事会（董事会）、同業者組合、そして銀行、保険会社、米関連、船会社といった企業を含めた複数の組織が横の連携をもちながらひとつの派閥を形成する様子を詳しく考察している [Skinner 1958: 210]。マレーシアの華人社会がタイの事例と大きく異なる点には、華人組織間の「横のつながり」において連邦政府に政治的チャンネルをもつ MCA が介在する点にある。これはまさにマレーシア独特の「民族の政治」を維持・強化するメカニズムを示すものである。

この構造の具体例として筆者が実地調査を行なったクランタン北東部の町バンダクチル²⁴⁾の事例を取り上げておきたい。バンダクチルはタイとの交易活動が町の主な経済活動となっている。華人人口は小規模であるものの、²⁵⁾ 中華商会、MCA、華文小学校の理事会（「董事会」という主な華人組織が存在する。2006 年にバンダクチル華文小学校において、手狭になった付属幼稚園の建物の拡張工事が行なわれることになったが、この際の工事資金は、第 9 次マレーシア計画（The Ninth Malaysia Plan）の下での国民型学校に対する補助金が割り当てられた。²⁶⁾ 同華文小学校の理事長の言葉を借りれば、「MCA が我々のところに資金を回してくれた」ことになっており、連邦政府からの補助金という意識が薄い。学校側は教育省に直接打診するのではなく、華人を代表する MCA という窓口を通すためである。同小学校理事会の役員たちは、MCA 支部において何らかの役員を務め、中華商会、コタバルの複数の同郷会館などにおいても役職をもつ。つまり理事会の存在そのものが MCA との政治的関係性の上に成り立っているものであり、これは華人組織間の「横のつながり」が、MCA を経由して「縦の政治チャンネル」に接続される末端構造を示すものである。

4.2 コタ・ラマ選挙区にみる MCA 経由の「民族の政治」構造の限界性

近年になり MCA 経由の「民族の政治」構造が必ずしも絶対的影響力をもつものではなく

23) スキナーは、個人が複数の組織や企業において役員を兼任することによって、組織の方針や政策決定の際に影響を強めること、権力の行使によって彼らの指導者としての立場をさらに強めることを指摘している [Skinner 1958: 210]。

24) 本稿におけるバンダクチルとは仮名である。

25) 2000 年のセンサスによればバンダクチル市街地の人口は 4,500 名であり、大部分がマレー人によって占められ (90%)、華人は全人口の 4% であった [Jabatan Perangkaan Malaysia. 2001]。

26) 第 9 次マレーシア計画 (2006-2010 年) とは、連邦政府による中期経済開発計画 (5 年) であり、インフラ整備、医療、環境、農業、教育、文化芸術遺産の項目に大きく分かれる。これより 444 の国民型華文学校、160 の国民型タミール校に対し教育項目の予算 (前者が 2,500 万リンギット、後者が 1,500 万リンギット) が割り当てられた [Bernama July 14, 2010]。

なっている。これは PAS 歴代初の華人ムスリム議員を誕生させた州都コタバルの選挙区の様子がまさにそれを反映している。クランタンにおける華人人口は、州北東部に全体の 8 割が集中し、とりわけ州都のコタバルに全華人人口の半数が居住する [Jabatan Perangkaan Malaysia 2001]。大部分のクランタン州内の選挙区ではマレー人有権者が圧倒的多数を占めるため、BN の公認候補者はマレー人政党である UMNO から立てられるのが一般的である。²⁷⁾ しかしながらクランタン州議会 45 小選挙区のうち、州都コタバルの一区、コタ・ラマ (Kota Lama) 区に限っては華人有権者が全体の 35% 以上を占めるため、州内で唯一、MCA が BN の公認候補を立てることができる。²⁸⁾ とりわけコタ・ラマ区を含めたコタバルの選挙区では、マレー人有権者の間で BN 支持者層と PAS 支持者層が五分五分となる可能性が高いため、²⁹⁾ 華人有権者の票の流れが大きく左右する。

従来の MCA 経由の「民族の政治」構造においては、MCA を中核に複数の華人組織が横の連携構造を形成することによって、華人社会の末端部分に至るまで同党の支持基盤を構築してきた。特に華人有権者の割合が最も高いコタ・ラマ区においては、必然的に BN の公認候補である MCA 所属の華人候補が当選を果たす確率が高まる。³⁰⁾ しかしながら 1999 年に PAS 所属の陳氏が立候補して以来、同氏が連続して同区の州議会議席を保持している [The Star March 5, 2008]。特に BN がクランタン州議会で大きく議席数を伸ばした 2004 年の総選挙においても BN の公認候補を立てた MCA はコタ・ラマ区を奪回することはできなかった。³¹⁾ つまり、コタ・ラマ区は MCA 経由の「民族の政治」構造の影響力を発揮できる唯一の場であるにも拘わらず、陳議員の台頭以降、十分に機能しなくなっているのである。

以上のように従来の MCA を中心とする政治構造およびその限界性を理解したうえで、次節では、PAS 派華人指導者が PAS を足場にどのような活動を行なっているのかという点について、華人住民向けの行政相談窓口としての役割、もうひとつは中国との経済的交渉における役割という 2 つの役割に焦点を当てる。

27) マレーシアでは小選挙区制をとるため、ひとつの選挙区に BN の公認候補は 1 人しか立てることができない [山本 2008: 5]。

28) 2006 年 7 月 27 日、MCA コタバル区部長の陳永生氏とのインタビューに基づく。2008 年の総選挙におけるコタ・ラマ選挙区の有権者 27,000 名の内訳は、マレー人が 60.5%、華人が 36.8%、インド人が 2% という構成であった [『中国報』April 21, 2009]。

29) たとえば、国会選挙区のコタバルにおけるマレー人有権者の間の BN 支持率は 1995 年は 41%、1999 年は 38%、2004 年は 52% であった [Gomez 2007: 9]。

30) なお、1959 年の総選挙では MCA はクランタンの州議会の候補を 3 区に立てることができたが、1964 年以降は MCA が与党連合の公認候補を立てることができるのはコタ・ラマ区のみとなった [『風雲時報』September 9, 2009]。

31) BN は 1999 年の総選挙ではクランタン州議席が 2 議席のみであったのに対し、2004 年の総選挙では 21 議席に拡大した [Moten 2006: 409]。

5. PAS 派華人指導者の役割

5.1 華人専門窓口としての PAS 派華人指導者

州政府の下で役職をもつ PAS 派華人指導者は、実質上 PAS を代表する華人専門窓口としての役割を果たしている。とりわけ華人住民の州政府に対する申請や苦情に対応することを目的に、移動クレーム受付所（華語では「流動投訴站」という行政相談窓口が設置された。州議員の陳氏を筆頭にコタバルの華人市議員、町議員、村長らが相談窓口を担当しており、華語や福建語など華人の主要言語で対応されている【『中国報』January 22, 2009】。そもそもこのような公的相談窓口が設けられる以前から、住民の抱える諸問題、特に土地、宗教、学校、商業活動という分野において、陳議員を中心とする PAS 派華人指導者が個別に相談に応じている姿が華語系メディアを通して伝えられてきた。³²⁾ しかし「流動投訴站」という公的な華人専門行政窓口の設置は、効率良く住民の諸問題に対応できるという実践的な意味をもつだけでなく、既述した MCA の相談窓口である「馬華公共服務及投訴局」に対抗する試みでもあり、PAS の華人有権者に対する重要な政治的アピールの場として位置づけることができる。MCA だけでなく PAS が華人専門の行政相談窓口を設置する背景として、以下のような連邦政府と州政府との間の所轄領域区分を理解しておく必要がある。

既述したように、マレーシアにおいては一般の住民が政府に対し交渉や請願を行なう場合、市町村の役所に向かうのではなく、個人の民族集団を代表する政党の地方支部を窓口にする。しかしながら野党が政権を握るクランタンにおいては、相談・交渉する内容が連邦政府と州政府のどちらの所轄権限に属するのかを判断し、それに応じて相談窓口を選ぶ必要がある。つまり連邦政府の所轄と関わる問題に関しては MCA を介することができるが、州政府の所轄に関わる問題に関しては州政府の役人との個人的人脈、すなわち非公式なコネクションを介して交渉が行われてきた [Winzeler 1985: 114]。そもそも州政府の所轄領域とは、①イスラム法と家族法、②土地、鉱物資源、③農林業、④地方自治、⑤公共事業（道路・橋・水道）・水資源、⑥州における各種刑罰などが挙げられ、主に宗教および土地・資源などマレー人社会に関する事項を中心とする [坂本 2007: 29-31]。特にその大部分が何らかの形で商業活動に従事する華人にとって商業活動に関わる許可証を発行する地方自治体との交渉が重要な位置を占める。³³⁾

32) たとえば、2005 年にクランタン北東部のトゥンパットにおいて、媽祖廟（「媽祖」とは道教の女神であり、中国南部から東南アジア華人社会において、主に航海・漁業の守護神として信仰を集める）の建設をめぐって、その建設計画が州の土地使用基準を満たしていなかったことから郡政府によって却下された。その際に、陳議員が直接同地を訪れ、州政府の立場を説明するという住民への対応を行なっている【『星州日報』January 27, 2005】。

33) 地方自治体で発行される商業活動上の許可証は主に、食品・食品加工品の製造、各種商業取引、宿泊施設、娯楽施設、屋台という項目となっている [坂本 2007: 49]。

クランタンの華人社会にとってみれば、PAS 派華人指導者の誕生は、MCA 経由の連邦政府の政治的経路、そして州政府役人との間のインフォーマルな政治的経路、という従来の2つの経路に加えて、PAS 派華人指導者経由の州政府の政治的経路が加わったことを意味する。

5.2 対外交渉役としての PAS 派華人指導者

以上のような華人窓口的役割に加えて、PAS 派華人指導者は外部との経済的交渉においても、積極的な役割を果たしている。一般的に PAS は、リベラルな資本主義活動に対して消極的であり、しばしば投資誘致の機会そのものを損なっているとの見方がメディアでは主流を占めてきた [The Straits Times December 10, 2004]。このような中で PAS 派華人指導者の役割は、従来の資本主義に消極的な PAS というイメージを崩し、資本誘致を推進することにあった。その典型的な事例として中国企業との交渉を取り上げたい。

クランタン州政府は他州および海外からの資本をクランタンに誘致することを目的に2003年に「国際投資委員会」を発足させたが、そのひとつの有力な資本誘致候補が中国であった。PAS 派華人指導者はこの中国側との交渉の際に重要な役割を果たした。実際に具体化されたひとつの例が、2004年12月にクランタン州政府と中国有色鉱業集团有限公司 (China Nonferrous Metal Mining & Co. Ltd) との間で結ばれた、州内の鉱物資源に対する探査権および採掘権を付与する契約である。この契約を交わすためにクランタン州政府を代表する視察団が結成されたが、そのメンバーには州政府を代表するマレー人議員だけでなく、陳議員、2名のコタバル華人市議員、クランタン潮州会館会長、その他の元コタバル市議員ら複数の華人指導者らが含まれた。これに加えて州政府は、中国企業との交渉に当たり、シンガポール出身で中国に複数の投資経験をもち学識者でもある林祥雄 (Lin Xiangxiong) 氏を州の主席経済顧問として起用している [『星州日報』 December 3, 2004; The Straits Times December 10, 2004]。

2004年の視察ツアーの主な目的は、中国有色鉱業集団との契約のためだけでなく、クランタンの立地条件、および AFTA (ASEAN Free Trade Area, アセアン自由貿易地域)³⁴⁾ という地域経済統合効果をアピールすることにより、複数の中国企業のクランタンへの工業・農業投資を誘致することにあった。特にクランタンは、タイとの国境に位置するため、マレー半島東海岸地域における物流の拠点としての可能性が強調された。PAS は、北京の東方集団東方家園

34) AFTA とは、1992年の第4回 ASEAN (東南アジア諸国連合) 首脳会議で提起されたものであり、域内貿易の活性化、域外からの直接投資と域内投資の促進および域内産業の国際競争力強化を主要目的とする。具体的にはCEPT (Common Effective Preferential Tariff) スキームに基づき、段階的に関税を引き下げ、最終的には一部の特定品目を除いて2010年までにその関税を撤廃するという取り決めである。なお、マレーシアにおいては、国内市場保護目的のため米および自動車は免税措置が適応されない一般除外品目 (General Exception List) に指定されている。1990年代後半以降、特にアセアン域内での産品を対象に関税率は引き下げられ、2004年の時点では、後発加盟国のベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジアを除くアセアン諸国では、全関税品目数の97.5%が関税率5%以下となっている [国際協力総合研修所 2006: 47-48]。

に対し、「中国アセアン物流センター」（中国東盟物流批發中心）を建設する案を提案している。これは中国製品をクランタン内の免税区に持ち込み、それを工場で再包装することによって、マレーシア産としてアセアン域内において免税で販売するというものである [『中国報』 December 4, 2004; *The Straits Times* December 10, 2004].

その後、中国からの投資誘致が現実のものとなり、2006年にクランタン州政府は中国有色鉱業集団との合弁会社、中馬金鉱集团公司 (CMNM Mining Group) を設立した。³⁵⁾ なお、中国アセアン物流センター建設のプロジェクトは今のところ実現されていないが (2010年7月現在)、中国との合弁会社 CMNM による金鉱山開発に関しては、実際にクランタン州内のソー金山 (Sokor gold field) で進められており、2010年7月には本格的な金の採掘生産を開始するという。³⁶⁾ クランタン州政府の資本誘致の試みは、マレーシア国内の華人系企業に対しても行なわれており、たとえば、陳議員に次ぐ PAS 派華人指導者として後述する元コタバル市議員の符芳僑 (Hu Phang Chaw) 氏³⁷⁾ は 2003 年にサラワク州の華人資本家の投資誘致ツアーを企画しており、事前に複数回、同州を個人的に訪問し、積極的に現地の華人有力者との人脈作りを行なっている。また中国視察団参加者のひとりであるクランタン潮州会館会長は、中国との合弁会社 CMNM の有力株主のひとりでもあり、公的に PAS 州政権支持を表明する数少ない華人指導者でもある。この潮州会館会長の個人的なコネクションを通して上述した林経済顧問が起用され、中国との交渉において重要な役割を果たした。³⁸⁾ このように、州政府の外部との投資誘致交渉に当たっては、PAS 派華人指導者がインフォーマルに人脈を形成しながら積極的な役割を果たしていることが分かる。

なお、視察団の際のひとつのエピソードとして、あるマレー人議員が、自分の祖父が中国出身であることを中国訪問中の宴会の席上で明かし、中国との血縁的関わりを強調する場面もみられたという点を挙げておきたい。とりわけ生を受けた時点から自分の属する民族に明確に分類されるマレーシアにおいては「マレー人」であることと「華人」であることの間が中間が存在せず、両者はある種対極に位置づけられる。しかし中国という場において、マレー人のも

35) 合弁会社 CMNM Mining Group の株主構成は、80%が中国有色鉱業集団の香港・シンガポール法人 (中色金礦有限公司)、10%がクランタン州、そして残りの 10%が個人投資家 (主にマレーシア人) となっている。この CMNM の主なプロジェクトは、州内のソー区未開発の金山 (2,370 エーカー) の開発およびその周辺の区域 3 万エーカーにおける鉱物資源の探査である。なお、CMNM は、実質上、香港・シンガポール法人の中色金礦有限公司の子会社として位置づけられている [The Star May 18, 2007; 『南洋商報』 July 18, 2010; 中色金礦有限公司 2011].

36) このソー金山はほぼ未開発のままであり、西マレーシアで最大の金鉱山のひとつになる可能性があるという [『光明日報』 May 18, 2010; 中色金礦有限公司 2011]. 財源の限られたクランタン州政府にとってみれば、金鉱山開発によって見込める税収入はかなり魅力的なものであるといえる。ただし州政府は州内の鉱物資源に関わる権限をもつものの、トレンガヌにおける連邦政府のオイル・ロイヤルティ奪取問題にみられるように、州政府の鉱物資源開発に関する権限は必ずしも保証されていない [河野 2010: 99-100; The Star February 24, 2010].

37) 符氏の名前はマンドリン読みでは Fu Fang Qiao と表記されることもある。

38) 2004 年 12 月 31 日、符芳僑氏とのインタビュー。

つ「非マレー性」が積極的に強調されたことは興味深い。³⁹⁾ PAS のマレー人指導者がクランタンの華人有権者にアピールする際に中国との血縁的関わりを強調することはないが、中国の回族（イスラム教徒）の事例を取り上げて、歴史的に中国ではマレー半島よりもずっと早い段階からイスラム教を取り入れていることを強調し、華人とイスラムとの関わりを強調している [『星州日報』 October 7, 2008]。

本節で考察した州レベルにおける華人専用行政窓口、外部との経済交渉・投資誘致の推進役という PAS 派華人指導者の役割は、すべて PAS がイスラム化政策と並行して試みる党のリベラルな現実的路線と直接関わる。つまり PAS 派華人指導者の果たす大きな役割は、党のマレー人指導者が十分にアプローチできなかった華人有権者や資本家との交渉窓口を作り出すことにあり、党の柔軟な側面を強調することにある。つまり党と外部とのクッション的機能を果たしている。次節では、PAS 派華人指導者の華人社会における位置を理解するために、華人組織・学校に対する金銭的貢献、MCA 指導者の PAS 派華人指導者に対する評価、そして PAS 派華人指導者の経歴を取り上げる。

6. 華人社会における PAS 派華人指導者の位置

6.1 華人組織・学校に対する金銭的貢献

コタバル市内で頻繁に開かれる中華総商会や同郷会館主催のパーティーやイベントは、MCA の政治家や有力な商人たちが集まる社交の場ともなっている。そうした会場ではたいてい、州議員の陳氏や元コタバル市議員の符氏、その他の華人コタバル市議員らが、MCA 関係者とともに主賓用の最前列中央のテーブルに同席する。政治家や有力者にとってこうした華人組織のパーティーは、重要な人脈作りの場となっているが、とりわけ最前列の貴賓席は、その社会的位置や政治的影響力の高さを示す。PAS 派華人指導者にとって、華人組織のパーティーやイベントは効果的に華人社会に対してその存在感を誇示するだけでなく、個人的な政治的影響力を構築する場である。このような場において、さらに効果的に政治的影響力を誇示する行為として挙げられるのが華人組織や学校に対する金銭的貢献である。

2008 年にクランタン潮州会館が創立 50 周年を祝うパーティーを開いた際には、MCA クランタン支部の副代表、MCA コタバル区部長などの MCA 関係者だけでなく、州議員の陳氏や PAS のマレー人国会議員も出席した。この際に、MCA からは、連邦政府の特別基金として 6 万リンギット⁴⁰⁾ が潮州会館に寄付されたが、これに対抗するように州議員の陳氏からは 5 万リンギット、PAS の国会議員からも 1 万リンギットが寄付された。すなわち MCA と PAS との間で争うように同郷会館に対して多額の寄付が行なわれたのである [『星州日報』 October 12,

39) 2004 年 12 月 31 日、符芳僑氏とのインタビュー。

40) 1 マレーシアリンギットは日本円約 30 円 (2004 年)。

2008].

このような金銭的貢献は、華文学校、特に私立学校である華文独立中学（中等部と高等部から構成）に対しても行なわれる。この背景には、マレーシアの公教育において中等・高等教育レベルの華文学校が排除されてきたという経緯があり、このため華文教育への金銭的貢献は、華人社会に対する文化的貢献として捉えられるという点が挙げられる。⁴¹⁾ そもそもマレーシアの中等教育は公立中学（国民中学と国民型中学）および私立中学に分かれる。1961 年の教育法によって中等教育レベルではすべて国語であるマレー語あるいは英語を第一言語とすることが定められた。このため、従来政府から補助金を受けていた華文中学は英語（1970 年代には国語であるマレー語）を第一言語とする国民型中学となり、⁴²⁾ 華語を第一言語とする場合は、公教育制度の外に置かれ華文独立中学として私立学校の道を歩むこととなった。このため華文独立中学は基本的に、授業料や民間からの寄付によって運営が成り立っている。とりわけ問題となるのは施設の改築費用、維持費などの資金源であり、特に華人人口そのものが少ないクランタンにおいては華文独立中学は財政的に厳しい状況にある。このような華文独立中学の状況に着目したのが PAS 派華人指導者のひとりで元コタバル市議員の符氏であった。符氏は BN 政権時代に華文独立中学で教鞭をとった経歴をもち、学校運営の内部事情に詳しい。PAS は、2001 年に同校の新校舎設立に対して 2 万リンギットの給付を行ない、また同校から州政府に支払われる税金も半分に減額している。符氏は PAS による貢献を強調する際にしばしば BN 政権時代（1980 年代）の華文独立中学に対する行政の無関心を取り上げる [符 2001]。以上のように PAS 派華人指導者による華人組織や華文学校に対する金銭的貢献は、その行為のもつ象徴的意味が十分に認識されたうえで効果的に行なわれているのである。

6.2 PAS 主催の華人新年会

以上のような金銭的貢献に加えて、PAS の華人有権者に対する文化的アピールとして挙げられるのが、中国旧正月を祝う新年会（華語では「華人新年会」）の主催である。これは、PAS のマレー人政治家と華人有権者との間の交流を目的とするものであり、クランタンでは 2002 年ごろから州内の複数の地区で毎年行なわれるようになった。たとえば 2006 年にパセマスで行なわれた PAS 主催の華人新年会には、クランタン州首相のニック・アジズも参加し「中国伝統文化ショー」も披露された。同氏からは参加した子どもたちに対し、お年玉（華語では「紅包」）も配られた [『星州日報』February 4, 2006]（写真 1）。

41) マレーシアにおける華文教育について考察を行なったタンは、華文学校の理事会（董事会）を華文教育のバトロンとして位置づけ、彼らの華文教育への金銭的貢献は、個人の社会的地位を強化すると指摘している [Tan 2000: 238]。

42) クランタンには旧華文学校の国民型中学が複数存在する。こうした国民型中学は国民型華文小学校と同じ敷地内に設置されている。こうした国民型中学は公的にはマレー語を第一言語とする国民型中学に分類されるが、母語（華語）の授業が週 120 分与えられる。クランタン華人の間では現在でも「華校」として認識されている。



写真 1 PAS 主催の華人新年会

中央がクランタン州首相ニック・アジズ氏，右隣が州議員の陳升頓氏，左端が DHPP 代表の符芳僑氏 [『星州日報』 February 16, 2008]．

実際に筆者が出席した 2003 年 2 月のバンダクチル役場で開かれた新年会には、60 名ほどの華人が家族ぐるみで顔をみせた。まず開会の挨拶として PAS のマレー人政治家による祝辞がマレー語でなされ、最後に華語による「ゴンシー・ファーツアイ（恭喜发财）」との掛け声が州政府関係者から発せられた。州政府からの祝辞の後は、立食形式で簡単な食事が提供され、バンダクチルでも PAS のマレー人指導者から子どもたちに対し「紅包」が配られた。この新年会の 2 週間ほど前に、バンダクチルの各華人世帯に中国風の招待状が送られており、参加したバンダクチルの華人たちの間では、PAS を支持するわけではないが、近所や知り合いも参加するひとつの行事だからという気軽な参加意識がみられた。⁴³⁾ 会場では MCA の党员でもあるバンダクチルの華人指導者 6 名が最前列の貴賓席に着席し、10 名ほどの PAS のマレー人指導者や陳議員らと互いに挨拶・会話を交わす光景が見受けられた。

このような PAS 主催の新年会だけでなく、陳議員の台頭以降、PAS のマレー人指導者が各種華人組織主催の新年会をはじめとする行事に出席することが恒例となった。特に PAS の精神的指導者であるニック・アジズはこうした華人関連の行事に積極的に参加しており、同氏の存在は華人有権者の間においても高く評価され、最高の主賓としての扱いを受ける。この背景には同氏がマレー人の間で高く崇拝される宗教指導者でありながらも、従来の PAS の宗教指導者にみられなかった柔軟なりべらるな側面をもつことが挙げられる。これは積極的に華人組織主催のイベントに顔を出し華人組織や華文学校に対し金銭的貢献を行なうという同氏の行動に反映している。またこのようなニック・アジズの華人社会に対する積極的な働きかけは後述するように同氏が後押しする陳議員ら PAS 派華人指導者の華人社会における位置をさらに高

43) バンダクチルの華人住民が参加する会館（同郷会館，中華総商会）主催の主な行事は、新年会，中秋節などであるが、大部分が州都のコタバルで開かれており、バンダクチルで開かれることはほとんどない。

めるという効果をもつ。

6.3 PAS 派華人指導者の MCA との関係

興味深いことに MCA クランタン州支部の指導者たちは、ライバルである陳議員に対して必ずしも否定的ではなく、むしろ同議員の勤勉さや人柄を評価する発言を行なっている。たとえば、コタバル区部長の陳永生氏（Cheng Yongsheng）は、「PAS がコタバルの華人票を吸い上げることができるのは、陳升頓の魅力と親身さにある。よって我々（MCA）の課題は彼（陳氏）よりも上の質を目指さなければならない」と敵方であるはずの陳氏に対して積極的な評価を下している〔『風雲時報』September 9, 2009〕。陳永生氏は 2008 年の総選挙でコタ・ラマ区から立候補し、PAS の陳升頓氏に敗れている。

また MCA パシプテ区部長の李国生（Li Guosheng）氏は、華字紙とのインタビューの中で「コタ・ラマ区議席を PAS の陳升頓に奪われて以来、我々（MCA）は未だに同区議席を奪回できていない。これは陳升頓の住民に対する親身な態度だけでなく、華人組織に対しても常に接触を保っていることが要因であろう」「かつての華人はこそこそと隠れて PAS を支持していたが、PAS がコタ・ラマ区議席を獲得して以来、華人は公然と PAS を支持するようになった。よって陳升頓の存在は PAS が華人票を獲得するのに大きく貢献している」と発言し、陳議員によって華人有権者の PAS に対する態度が変化したことを指摘している〔『風雲時報』September 9, 2009〕。PAS 所属の華人議員が誕生する以前のクランタン華人社会においては、華人系政党以外を支持することに対して倫理的問題があるように認識され、よって個人的に PAS を支持することはあたかも非華人的な行為としてみなされていた。しかしながら、陳議員や符氏のような PAS を足場に政治的活動を行なう華人指導者が誕生したことは、BN 方式の「民族の政治」において前提視されてきた「華人なら華人系政党を支持すべき」という概念を大きく打ち崩すことにつながった。以上のような MCA 指導者の陳議員に対する積極的な評価は、政党間の政治的しがらみを越えて、MCA 指導者が陳議員の華人政治家としての優位性をある程度認めていることを示すものである。

6.4 PAS 派華人指導者の華人社会の中での経歴

このように PAS 派華人指導者は華人社会において周縁化されるのではなく、ある一定の影響をもつことが明らかとなるが、これは彼らが PAS と関わる以前からの経歴と深く関わる。今日の PAS 派華人指導者たちは、もともと MCA や Gerakan など華人系政党を足場に政治的活動を行なっていた。たとえば、陳議員は、1990 年代前半において Gerakan クランタン支部の青年部副代表を務めていた。同氏は 1996 年にコタバル市議員の職を受け入れたと同時に Gerakan を離党するが、同氏によれば「離党するつもりはなかったが、PAS 州政権からのオファーであった市議員職を受け入れたため Gerakan から離党させられた」という。なお、BN がクランタン政権を握っていた 1980 年代においては、BN を構成する華人系政党間、すなわ

ち Gerakan と MCA との間で支持基盤をめぐって競合関係がみられた。しかし 1990 年に PAS がクランタン州政権に復帰すると、Gerakan に対する支持基盤そのものが次第に弱まっていく。⁴⁴⁾ 陳議員の Gerakan 離党の背景には、Gerakan クランタン支部内部の問題があったと考えることができる。

また陳議員に次ぎ重要な PAS 派華人指導者である符氏は、2000 年から 2005 年までコタバル市議員を務め、その後は非ムスリム有権者向けに PAS 支持者団体を立ち上げた。現在はその全国代表を務める。⁴⁵⁾ 符氏は華文独立中学の教員、華文小学校の副校長、そして華字紙の記者という経歴をもつ。また MCA のクランタン州支部秘書を務めており、MCA を足場とする政治的活動にも積極的であった。しかしながら、記者時代に州議員に選出された陳氏との個人的交流を快く思わなかった当時の MCA クランタン州支部代表が新聞社に働きかけ、符氏を他州に左遷した。これを契機に、符氏は新聞社を退職し、1999 年総選挙で州議員に当選した陳氏の秘書として働きはじめる。符氏が陳氏と同じ海南系華人であったことも両者を結びつける背景となった。⁴⁶⁾ 現在でも符氏は記者時代の個人的コネクションを通して、華字紙地方版において積極的に発言を行なっている [『星州日報』 December 15, 2005, December 1, 2009; 『中国報』 February 10, 2010]。陳氏や符氏の大きな特徴は、従来の華人指導者と比べて財力が必ずしも政治的影響力の構築において絶対的な要件となっているのではなく、むしろ政治的コネクションを通して、個人の政治的影響力が実践されていることにある。⁴⁷⁾ なお、PAS 派華人指導者の政治的位置関係を示したものが図 1 である。

このように PAS 派華人指導者は、イスラム主義を掲げる PAS との関係性によって華人社会から周縁化されるのではなく、むしろ従来の華人指導者がもち得なかった州政府へのチャンネルのもつ有益性を積極的に強調することによって華人社会における影響力を構築する。また華人組織や華文学校への金銭的貢献を積極的に誇示することによって、PAS の積極的なイメージを推進するだけでなく華人社会における個人の政治的影響力を実践している。これに加えて PAS 主催の新年会に MCA の党員が参加する、あるいはコタバルで開かれるさまざまなイベントやパーティーで PAS 派華人指導者と MCA の役員が同じテーブルに着席するなど、両者の間では常に交流の場が保たれている。中華総商会や同郷会館の指導者はたいてい MCA 党員に

44) 2006 年 7 月 28 日、MCA (クランタン) 関係者とのインタビュー。

45) PAS 支持者団体の詳細については次節を参照。

46) MCA コタバル区支部関係者 (2006 年 7 月 27 日) および符芳僑氏 (2006 年 6 月 29 日) とのインタビューに基づく。

47) ペラ州のある新村を対象に国家政治の地方における影響を考察したストラウチは、華人指導者の主な要件として、政治的交渉能力、財力、公德心という 3 つの要素を挙げている。しかしながら 1950 年代初頭戒厳令下の新村という特殊な政治的環境にあったストラウチの事例においては、個人の経済力は必ずしもその政治的影響力を保障するものではなく、むしろ官僚や政党との政治的コネクションが重要な要素であった [Strauch 1981: 101]。本稿で考察する PAS 派華人指導者もまた財力ではなく政治的コネクションを背景に政治的影響力を構築しており、こうした点では共通性を見出すことができる。

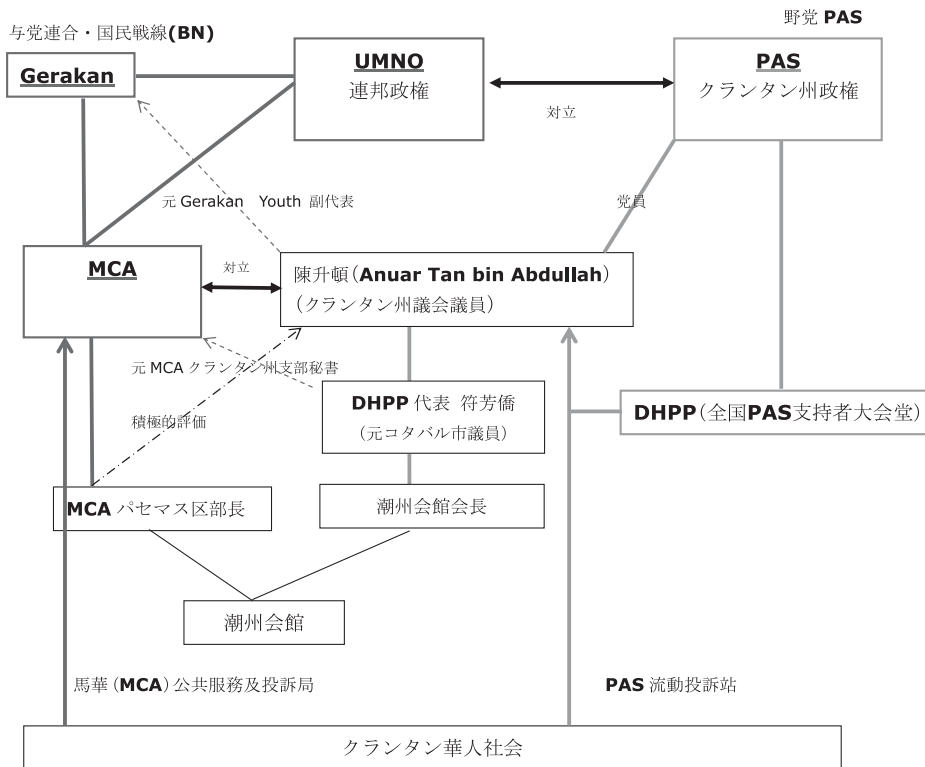


図 1 PAS 派華人リーダーをとりまく位置関係

よって占められているが、PAS 派華人指導者が商会や会館主催のパーティの出席者名簿から排除されることはない。この背景には PAS 派華人指導者がすでに華人社会において確固たる地位や人脈をもつというだけでなく、商会や会館側もまた PAS 派華人指導者を通じて州政府との政治的経路を保持しようとする現実的側面を窺うことができる。ごく小規模の人口によって構成されるクランタン華人社会においては、政党間のイデオロギー上の対立はあっても、個人レベルでは親族、学校、商業などさまざまなネットワークを通して密接な関係をもつという点が重要である。このようなクランタン独特の社会的土壌が MCA と PAS 派華人指導者間の関係に反映しているといえる。次節では、PAS 党内において PAS 派華人指導者が政治的にどのような位置を占めているのかという点について、華人有権者向けの PAS 支持者団体を立ち上げたある華人指導者の活動に焦点を当てる。

7. PAS 派華人指導者の PAS における政治的位置

既述したように PAS はマレー人有権者が主な支持基盤であるが、連邦レベルにおける政治的影響力拡大のためにはクランタンだけでなく全国規模において非ムスリム有権者、特に華人

有権者の支持基盤を構築する必要がある。これを具現化させたのが、符芳僑氏を代表として2004年総選挙直前に発足した支持者倶楽部 (*Kelab Penyokong PAS*) である。同団体は華人を中心とする非マレー人有権者を対象にPASの支持基盤を拡大する試みを行なっている。⁴⁸⁾ 当初の会員は大部分が華人であったが、MICに不満をもつインド系有権者の会員も増加した。⁴⁹⁾ そして支持者倶楽部の会員数が2万人を越えた2010年5月に全国PAS支持者大会堂 (*Dewan Himpunan Penyokong PAS*, 華語名は全国回教黨支持者大會堂, 以下略称DHPP) として正式なPASの関連団体に格上げされた。当初の支持者倶楽部は、党組織の外に置かれた明確な地位をもたない団体であったわけであるが、DHPPとして党内部に正式に組み込まれた [*The New Straits Times* May 18, June 8, 2010; 『独立新聞在綫』 June 3, 2007]。

しかしながら符氏が代表を務めるDHPPはその発足時点から大きな矛盾をはらんでいる。この大きな要因はPASの党員規則にある。マレーシアにおいては有権者個人が支持する政党の党員となることはごく当り前にみられる行為であり、クランタンの華人有権者の40%がMCAの党員であったということからも明らかである。しかしながら、PASは非イスラム教徒を正式な党員として認めることができないという党員規則をもつ。よってDHPPという党の関連団体が発足されたにも拘わらず、この団体を構成するメンバーのほとんどはPASの党員資格をもたない。PASはDHPPを党の一団体として公認した後も、党員条件のイスラム教徒という原則を変えることはないという [*The New Straits Times* May 18, 2010]。こうしてDHPPの誕生によって、PASの全国レベルにおける非ムスリム有権者支持層の拡大を狙う試みをより積極的に具現化することになったが、同時に党組織において「正党員」と「非党員のDHPP会員」というダブルスタンダードを生むことにもなったのである。⁵⁰⁾

次の総選挙 (前回の総選挙2008年から5年以内に行なわれる予定) では、DHPP代表の符氏の出馬の可能性が噂されているが、PASの党員条件が大きなネックとなっている。符氏によればPAS公認候補として国会議員あるいは州議員に立候補することが実現されたとしても、イスラム教徒に改宗するつもりはないと表明している。符氏が総選挙でPAS公認の候補として議会に立候補するという噂はすでに2008年からあったが、正式にPASがその可能性もあることを示唆したのは2010年の党大会においてである [『光明日報』 March 26, 2008; 『中

48) 符氏は支持者倶楽部の発足に関して、あくまでも符氏ら華人有志数名の自主的な意思によるものであったという (2006年6月29日、符芳僑氏とのインタビューより)。

49) [Free Malaysia Today May 29, 2010]. なお、PAS支持者倶楽部の会員が2万人に達した2009年には倶楽部そのものを華人とインド人で分けるという動きもあったが、結局、これは与党BNによる民族主義と変わりがないとして批判を受けた [Bernama June 3, 2009]。

50) UMNOもまた原則的にマレー人政党であるが、サバおよびサラワク州における非ムスリムのブミブトラ (多くがカソリック教徒) に対しては党員資格を与えている。またUMNOは、ケダとプルリス州のタイ仏教徒に対してもブミブトラに相当するとして党員資格を与えているが、クランタンのタイ仏教徒に対しては党員資格が与えられていない [Abdul 2001: 80]。このようにUMNOは、ブミブトラであるという条件の下にごく少数ではあるが非イスラム教徒に党員資格を与えている。

国報』April 21, 2009; *The Star* June 12, 2010]. 符氏は、DHPP の全国代表としてマレーシア各州に飛び DHPP の会員拡大のためのキャンペーンを行っていたが、これは総選挙出馬に向けた符氏個人の人脉作りや政治基盤形成にも結びついた。同氏は、PAS が非ムスリムの DHPP 会員を PAS 党員として認めるように、PAS 政府の執行部に対し働きかけを行っており、最近では PAS のジョホール州支部代表が紙上において非ムスリムが PAS 所属候補として総選挙に出馬することを支持している [『星州日報』June 5, 2011]. ただし、こうした PAS 派華人指導者の積極的な政治的活動の背景には、ニック・アジズの個人的後押しがあり、高齢である同氏が引退した後の DHPP の存在そのものを危ぶむ声を一部メディアが報じている [The *Malaysian Insider* June 9, 2010].

とりわけ興味深い点は、財力もなく政治的地位をもつわけでもなかった符氏が、全国的な PAS 支持者組織を拡大し、今回の総選挙における PAS 候補者として出馬する可能性すら出ていることであり、これは従来のマレーシア政治を位置づけてきた BN 方式の「民族の政治」においても、考えられなかったような現象である。符氏の政治的頭角の背景には、党の重鎮となるニック・アジズの後押しを得たこと、そして同時に華語系メディアなどを通して積極的に PAS に対する発言や提言を行ってきたことが挙げられ、結果として個人の政治的影響力を高めることにつながったと解釈することができる。

ただし PAS が党員条件としてイスラム教徒であることを掲げている限り、本質的に PAS と非ムスリムとの間には排他的境界が存在する。よって DHPP が党の関連団体に昇格しても、DHPP 会員の扱いや符氏のような非ムスリムを PAS の公認候補として選出できるのかという点に関しては、党の党員原則との根本的な矛盾を抱えている。PAS の抱えるジレンマはこれだけではない。2009 年 12 月にニック・アジズがマレー人以外のムスリムも州首相となることができるように州の憲法を改正することを提案した際には、党内からの大きな反発を受け [The *Malay Mail* December 30, 2009], また PAS が非ムスリム有権者（主に華人）からの支持獲得を積極的に行なうことによって、反対にマレー人支持者層の党離れを招きかねないという懸念の声が上がった [The *Malaysian Insider* June 12, 2010]. これは、PAS の掲げる理想としてのイスラムの下民族平等が、従来のマレー人民族主義との衝突を生み出していることを反映している。このような PAS の抱える本質的な矛盾の中に PAS 派華人指導者が位置しているのである。

8. 結びに代えて

本稿では、現代クランタンにおける PAS 派華人指導者の台頭という政治的動態に焦点を当てた。クランタンにおける社会的背景、華人社会におけるおよび PAS における PAS 派華人指導者の位置という多角的視角から考察することにより、複雑な力関係の網の目の中に位置づけ

られる PAS 派華人指導者の姿を浮き彫りにすることが可能となった。本考察における主な問いは、従来のマレーシア社会を位置づけてきた BN 方式の「民族の政治」に対し、PAS 派華人指導者の政治的实践は、どのような尺度に基づく個人と政党との社会関係として位置づけられるものであるのかという点にあった。終節でこの問いに焦点を置きながら、以下の 3 つの点に総括する。

第一に PAS 派華人指導者の政治的活動からみえてくることは、PAS 政権下に置かれたマイノリティとしての受動的・周縁的側面よりも、むしろ個人が敢えてイスラム政党を政治的活動の場として選択することにより、クランタン独特の政治的状况を逆手に取りながら積極的に自らの生きる場を展開していく柔軟性や主体性を反映するものであったという点である。

第二に DHPP の代表を務める符氏のように、改宗しないまま非ムスリムとして PAS から立候補するという試みさえみられるようになり、その実現の有無はともかくも、そこには従来のマレーシア、とりわけ半島マレーシアではみられなかったような個人と政党との関わりが展開されているという点が挙げられる。符氏が単純に反 BN であるならば、華人系野党である DAP に入党するというシナリオもある。符氏があくまでも PAS を足場にした政治活動にこだわる理由には、MCA 指導者との個人的対立や BN に対する失望感があっただけでなく、PAS において華人というマイノリティであるからこそ果たすことのできるユニークな政治的役割に魅力をみだしたことにあった。DHPP における符氏の活動は明らかに華人内部の政治的競争関係が厳しい MCA においては発揮することのできなかつたような政治的役割であり、PAS という場を通してこそ実現することができる。つまり「民族」という枠組みを超えた新たな場で政治的ニッチを開拓していったと捉えることができる。このように PAS 派華人指導者の実践は明らかに個人が、「民族」のもつ矛盾や政治性を理解したうえで、戦略的に選択、実現された個人と政党との社会関係であると位置づけることができる。

第三に挙げられるのは、PAS 派華人指導者は PAS の民族平等を強調しながらも、その本質は必ずしも「民族」の枠組みを乗り越える純粋な多民族主義に基づくものではないという点である。そもそも PAS の華人有権者に対するアピール点は BN 方式の「民族の政治」が生み出してきた民族間の権利不平等の是正にあった。PAS 派華人指導者の大きな役割はこのメッセージを、効果的に華人系の媒体、組織を通して華語に翻訳し伝達することにあったが、その際に「我々、華人の権利」が損なわれているという点を強調し、PAS を華人にとっての新たな「民族の庇護者」として提示したのである。PAS の中でユニークな役割を果たすことができたのもまさにその華人性にあったといえる。

それでは一体、PAS 派華人指導者の実践はどのような尺度に基づく個人と政党の関係であるのか。果たして「民族」に代わる新しい尺度が機能しているのであろうか。PAS 派華人指導者個人の政治的選択そのものは「民族の政治」の超越である。しかしながらその政治的活動にお

いては「民族」という従来の社会的枠組みに訴えることによってのみ、その政治的影響力の構築が実現されている。つまり表面的には「民族」という尺度を乗り越えようとする政治的選択のように捉えられるが、その実践においては「民族」のもつ政治性やその効果を逆手に取ることで、個人と政党との間にある種の戦略的な互惠関係が生み出されているのである。

本稿ではクランタン華人社会の政治的動態にとどまらず、現代マレーシアという文脈における個人と政党との社会関係の一端を明らかにすることを試みた。しかしながら本稿の考察の焦点は、PAS 派華人指導者たちの政治的活動や政治的位置にあり、PAS 派華人指導者の台頭によって一般の華人有権者の生活に具体的にどのような影響が及ぼされたのか、華人有権者は MCA と PAS が競合する中でどのように政治的経路を使い分けているのか、という点に関しては十分に吟味することはできなかった。この点に関しては今後の研究の課題としたい。なお、PAS 派華人指導者たちの将来性については、不安定な要素が非常に強い。とりわけ PAS がイスラム国家の実現をその党の目標に掲げている限り、党员条件であるイスラム教徒という項目を排除することは非現実的である。またリョウが指摘するように、PAS が提示するイスラム国家論において非ムスリムがイスラム国家の中でどのような位置に立つのか、また彼らの権利・利益がいかに守られるのかという点に関してはいまだに明確にされていない [Liow 2009: 106]。このため PAS の説く民族平等精神および PAS 派華人指導者の政治的位置には、常に限界性と矛盾を伴うものであるという点も付け加えておきたい。

引用文献

(* 中文名是北京標準語音を基に表記)

- Abdul Rahman Embong. 2001. The Culture and Practice of Pluralism in Postcolonial Malaysia. In Robert Hefner ed., *The Politics of Multiculturalism: Pluralism and Citizenship in Malaysia, Singapore, and Indonesia*. Honolulu: University of Hawai'i Press, pp. 59-85.
- Brown, David. 1994. *The State and Ethnic Politics in Southeast Asia*. London: Routledge.
- Crouch, Harold. 1996. *Government and Society in Malaysia*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- 符 芳橋. 2001. 「吉蘭丹回教党執政下、対華社的衝撃」学術專題, 孝恩文化基金会. <<http://www.xiao-en.org/cultural/academic.asp?loc=zh-cn>> (2011 年 8 月 1 日)
- Funston, John. 1976. The Origins of Parti Islam Se Malaysia, *Journal of Southeast Asian Studies* 7(1): 58-73.
- Gomez, Edmund Terence. 2007. Introduction: Resistance to Change—Malay Politics in Malaysia. In Edmund Terence Gomez ed., *Politics in Malaysia: The Malay Dimension*. Abingdon, Oxon: Routledge, pp. 1-23.
- Jabatan Perangkaan Malaysia. 2001. *Taburan Penduduk Mengikut Kawasan Pihak Berkuasa Tempatan dan Mukim 2000*. Kuala Lumpur: Jabatan Perangkaan Malaysia.
- 金子芳樹. 2001. 『マレーシアの政治とエスニシティ—華人政治と国民統合』晃洋書房.
- 川端隆史. 2008. 『「新党」は政治変革を起こすのか—マレーシア政治への一視角』山本博之編『「民族の政治」は終わったのか?—2008 年マレーシア総選挙の現地報告と分析』日本マレーシア研究会, 105-112.
- 河野元子. 2010. 「マレーシアにおける地方行政と地方政府」永井史男・船津鶴代編『東南アジアにおけ

- る自治体ガバナンスの比較研究』調査研究報告書，アジア経済研究所。
- Kessler, Clive. 1978. *Islam and Politics in a Malay State: Kelantan 1838-1969*. Ithaca, New York: Cornell University Press.
- 国際協力総合研修所. 2006. 『東南アジア地域援助研究会報告書—地域統合と開発援助 総論』独立行政法人国際協力機構。
- Liew, Chin Tong. 2005 (Jan 17). Rise of Leadership by Ulama in Pas, *Malaysiakini*, <<http://wansaiful.com>> (2011 年 8 月 1 日)
- . 2007. PAS Politics: Defining an Islamic States. In Edmund Terence Gomez ed., *Politics in Malaysia: The Malay Dimension*. London and New York: Routledge, pp. 107-137.
- Liow, Chin Yong Joseph. 2004. Exigency or Expediency? Contextualizing Political Islam and the PAS Challenge in Malaysian Politics, *Third World Quarterly* 25(2): 359-372.
- . 2009. *Piety and Politics: Islamism in Contemporary Malaysia*. Oxford: Oxford University Press.
- Majlis Mesyuarat Kerajaan/Dewan Negeri Kelantan. <<http://www.mmk.kelantan.gov.my>> (2011 年 8 月 1 日)
- Mohammad Hashim Kamli. 1998. Punishment in Islamic Law: A Critique of the Hudud Bill of Kelantan, Malaysia, *Arab Law Quarterly* 13(3): 203-234.
- Moten, Abdul Rashid. 2006. The December 2005 Pengkalan Pasir By-election in Kelantan, Malaysia: An Election with a Difference, *Contemporary Southeast Asia* 28(3): 407-423.
- Nagata, Judith. 1980. Religious Ideology and Social Change: The Islamic Revival in Malaysia, *Pacific Affairs* 53(3): 405-439.
- Nash, Manning. 1974. *Peasant Citizens: Politics, Religion, and Modernization in Kelantan, Malaysia*. Athens, Ohio: Ohio University Centre for International Studies.
- Ong, Aihwa. 1995. State Versus Islam: Malay Families, Women's Bodies, and the Body Politics in Malaysia. In Aihwa Ong and Michael G. Peletz eds., *Bewitching Women, Pious Men: Gender and Body Politics in Southeast Asia*. Berkeley: University of California Press, pp. 159-194.
- Pepinsky, Thomas B. 2009. The 2008 Malaysian Elections: An End to Ethnic Politics?, *Journal of East Asian Studies* 9: 87-120.
- Ratnam, K. J. 1965. *Communalism and the Political Process in Malaya*. Singapore: University of Malaya Press.
- 坂本篤記. 2007. 『マレーシアの地方自治』Clair Report Number 313. 財団法人自治体国際化協会・シンガポール事務所。
- Skinner, William. 1958. *Leadership and Power in the Chinese Community of Thailand*. Ithaca, New York: Cornell University Press.
- Stark, Jan. 2004. Constructing an Islamic Model in Two Malaysian States: PAS Rule in Kelantan and Trengganu, *Sojourn* 19(1): 51-75.
- Strauch, Judith. 1981. *Chinese Village Politics in the Malaysian State*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press.
- 高村加珠恵. 2010. 「日常的越境空間の認知地図：タイ・マレーシア国境東部の華人社会の考察から」東京外国語大学大学院博士論文。
- Tan, Chee Beng. 1982. Peranakan Chinese in Northeast Kelantan with Special Reference to Chinese Religion, *Journal of the Malaysian Branch of Royal Asiatic Society* 55(1): 26-52.
- Tan Liok Ee. 2000. Chinese Schools in Malaysia: A Case of Cultural Resilience. In Lee Kam Hing and Tan Chee Beng eds., *The Chinese in Malaysia*. Kuala Lumpur: Oxford University Press, pp. 228-254.

- 多和田裕司. 1995. 『『歴史』の中のマレー・イスラム』『長崎大学教養部紀要（人文科学篇）』35(2): 165-178.
- Teo, Kok Seong. 2003. *The Peranakan Chinese of Kelantan. A Study of the Culture, Language and Communication of an Assimilated Group in Malaysia*. London: ASEAN Academic Press.
- Winzeler, Robert. 1985. *Ethnic Relations in Kelantan, A Study of the Chinese and Thai as Ethnic Minorities in a Malay State*. Kuala Lumpur: Oxford University Press.
- 山本博之. 2008. 「序論—『民族の政治』は終わったのか?」山本博之編『「民族の政治」は終わったのか?—2008 年マレーシア総選挙の現地報告と分析』日本マレーシア研究会, 4-11.
- 中色金礦有限公司. 〈http://www.cnmc.com.hk/operation_copy.hm.〉(2011 年 8 月 1 日)

新聞・雑誌

[英文]

- Aliran Monthly*. 2002 (June). Q&A on the Hudud and Qisas Enactment 〈<http://www.aliran.com/>〉(2011 年 8 月 1 日)
- Bernama*. 2009 (June 3). Call for PAS supporters' club to be legal entity in party.
- _____. 2010 (July 14). SJKCs received bulk of 9MP allocation for aided schools.
- Free Malaysia Today*. 2010 (May 29). PAS urges supporters to avoid GAS rally.
- The Malay Mail*. 2009 (December 30). Nik Aziz's 'political gimmick.'
- The Malaysian Insider*. 2010 (June 9). Nik Aziz says 'no way' to PAS-Umno unity talks.
- _____. 2010 (June 12). PAS losing support among Malays, admits party leaders.
- The New Straits Times*. 2000 (August 23). Non-Malays face bleak future in Pas-led Government.
- _____. 2008 (March 31). Moderation the key to success for Pas?
- _____. 2010 (May 18). Pas Supporters' Congress to woo more non-Muslims.
- _____. 2010 (June 8). Pas fishing for non-Malay votes.
- The Star*. 2007 (May 18). Mining company eyes gold deposits in Kelantan.
- _____. 2008 (March 5). Winds of change in Kota Lama.
- _____. 2010 (February 24). Oil claim and the Constitution.
- _____. 2010 (June 12). Pas to field non-Muslims in general election.
- The Straits Times*. 2004 (December 10). PAS looks to China for help in Kelantan.

[中文]

- 『独立新聞在綫』2007 年 6 月 3 日「促回教党~~擯棄~~回教国字眼：符芳僑游說黨員改變思維」
- 『風雲時報』2009 年 9 月 9 日「焦点：走入吉蘭丹之一：在吉蘭丹的馬華与華社」
- 『光明日報』2008 年 3 月 26 日「丹政府“親華牌”符芳僑或受委上議員」
- _____. 2010 年 5 月 18 日「丹州將~~挖~~12 萬噸金礦土・煉金廠 7 月料~~產~~第一桶金」
- 『南洋商報』2010 年 7 月 18 日「丹政府宣传~~官~~谢銓来促符芳~~侨~~关注国内~~课题~~」
- 『星州日報』2004 年 10 月 29 日「阿都阿茲：欲中午 3 點前營業，非回教徒餐飲業須提申請」
- _____. 2004 年 11 月 07 日「哥市禁掛非回教徒廣告」
- _____. 2004 年 12 月 3 日「丹歡迎中国投資商」
- _____. 2005 年 1 月 27 日「道北媽祖廟或建不成」
- _____. 2005 年 12 月 13 日「丹售酒執照保持 12 張，公會極力爭取吉賴酒牌」
- _____. 2005 年 12 月 15 日「符芳僑促檢討教條式政策，回教黨政府須有危機感」

- _____. 2006 年 2 月 4 日「丹州政府辦新春團拜聶阿茲派紅包一掃而空」
- _____. 2008 年 2 月 16 日「一曲數圖勝千言・陳升頓 MV “出街”」
- _____. 2008 年 10 月 7 日「位於丹州蘭斗班讓・中華風回教堂 11 月開幕」
- _____. 2008 年 10 月 12 日「陳春華：不論党派・新任首相應以民為本」
- _____. 2009 年 9 月 4 日「馬華歷史」
- _____. 2009 年 12 月 1 日「符芳僑：貫徹宗旨抗國陣・回教黨應落實研討會共識」
- _____. 2011 年 6 月 5 日「回教黨黨選・柔佛代表建議・“大選派非回教徒上陣”」
- 『中国報』2004 年 12 月 4 日「邀東方家園：丹州投資考察團提二建議」
- _____. 2009 年 1 月 22 日「丹州市縣議員宣誓就職」
- _____. 2009 年 4 月 21 日「下屆大選擬哥拉瑪上陣符芳僑冀陳升頓讓路」
- _____. 2010 年 2 月 10 日「丹旅遊 區被指衛生差：符芳僑承認需改善」
- _____. 2010 年 3 月 1 日「丹州議會：議員建議丹政府每 10 年檢討石油契約」
- 『中国僑網』2006 年 7 月 8 日「拿督陳升頓：馬來西亞吉蘭丹州唯一華裔州議員」